２８	兵庫県立須磨東高等学校	H28～R1

令和元年度研究開発実施報告書（要約）

１　研究開発課題

法的思考力・判断力を社会人として求められる基礎的な素養として、これを身につけた人材育成を目指す。本校では、法的思考力・判断力をより広義に捉え、物事を多面的に捉える力、公正に判断する力、法を活かして社会の調和を保ちながら暮らす力と位置づける。これに向けて、公民科を再編成して「メディア研究」（必履修科目）「リーガルマインド」（選択科目）を設置するとともに「総合的な学習の時間」の学習内容と指導方法、評価方法について研究開発を行う。また、研究において、社会的な課題を発見する活動、解決に向けた探究活動を行うことにより、新設科目「公共」（仮称）の内容開発に資することも視野に入れる。

２　研究の概要

将来、社会を支えるジェネラリストとして活躍するための基礎の素養として市民性としてのリーガルマインド※を掲げ、18 歳段階で求められる資質の一つとした。この観点から生徒のリーガルマインドを育成する方途を次のように開発し検証する。

① 学習指導要領における「現代社会」を分析・検証し、「市民性としてのリーガルマインド」に必要な公民学習を再構成する。

② 「メディア研究」「リーガルマインド基礎」「リーガルマインドⅠ」「リーガルマインドⅡ」のカリキュラム・授業開発を行う。

③ 次期学習指導要領に示された教科・科目との関連について分析する。

④ 「市民性としてのリーガルマインド」の育成について評価・検証を行う。

※ 本校では、リーガルマインドを法的思考力・判断力を持ちながら、社会のさまざまな事象に主体的にアプローチし、利害を調整し解決策を打ち立てる能力と仮定する。クールな頭で思考しホットな心で弱者に寄り添う態度を求めている。

３　研究開発の内容

（１）研究仮説

本研究では、「市民性としてのリーガルマインド」を育成することを目的とし、次の 3 点を研究仮説とした。

① 「市民性としてのリーガルマインド」についての資質・能力を具体化・構造化した上で、それらを踏まえて公民科学校設定科目を新設するとともに、「総合的な学習の時間」（現「総合的な探究の時間」）を再構成する。それらの科目のカリキュラム開発・授業開発を行い、授業実践をすることで、18 歳段階で求められる資質を育成することができるのではないか。

② 新設科目の目標や内容と、平成 30 年告示の高等学校学習指導要領の目標や内容の関連を分析することをとおして、令和 4 年度に向けてのカリキュラムや授業の改善に資することができるのではないか。

③ 生徒・教員・卒業生・保護者を対象にアンケートを実施し、それらを分析することで、「市民性としてのリーガルマインド」が育成できたかどうか、評価・検証することができるのではないか。

（２）教育課程の特例

①教育課程の特例

中学校社会科公民的分野での学習成果の上に立って、「総合的な学習の時間」(現「総合的な探究の時間」)を「リーガルマインド基礎」として、幸福、正義、公正の基礎的･基本的な概念を理解し､これを活用して社会のあり方を考察する場面を設ける。

また、「メディア研究」を新設し、現代社会の文化、政治、法などの理解を深め、社会の中での自己の在り方生き方を考察させる場面を設ける。これらにより、表１のように「現代社会」の内容のうち、(1) 私たちの生きる社会、(2)現代社会と人間としての在り方生き方のうち、イ．現代の民主政治と政治参加の意義、ウ．個人の尊重と法の支配､オ.国際社会の動向と日本の果たすべき役割を主題として設定し取り扱う。そして、公民科の「現代社会」の単位を１単位に減じ、代わって「現代社会」「メディア研究」の履修をもって、公民科の必履修要件を満たすものとする。

表１　「メディア研究」と「現代社会」の目標・内容

教科	科目	目標	内容
公民科	メディア研究 （１単位）	見識ある市民になるための市民性を養う。	(1) 私たちの生きる社会 (2) 現代社会と人間としての在り方生き方 イ　現代の民主政治と政治参加の意義 ウ　個人の尊重と法の支配 オ　国際社会の動向と日本の果たすべき役割
	現代社会 （１単位）	良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。 高等学校学習指導要領（平成２１年告示）	(2) 現代社会と人間としての在り方生き方 ア　青年期と自己の形成 エ　現代の経済社会と経済活動の在り方 (3) 共に生きる社会を目指して

②「市民性としてのリーガルマインド」のために育成すべき資質・能力

「市民性としてのリーガルマインド」のために育成すべき資質・能力を、次の表２のように整理した。

表２　「市民性としてのリーガルマインド」のために育成すべき資質・能力

育成すべき資質・能力	育成すべき資質・能力の具体
社会人基礎力	ａ．自分の役割を果たしつつ、他者と協力する態度 ｂ．公正・公平に価値判断をする力、物事を多面的に捉える力 ｃ．様々な情報を適切に取捨選択する力 ｄ．法を活かして社会の調和を保ちながら暮らす態度
キャリア形成力	ａ．主体的に社会に参画する態度 ｂ．「働くこと」の意義を理解する力

課題解決力	a．社会の様々な課題を抽出し設定する力 b．課題について整理・分析し、調査する力 c．課題解決のために適切な計画を立て解決策を考察し説明する力 d．協働的に追究し解決する態度 e．解決したことをまとめて表現する力
統合的構想力	a．意思決定のプロセス（現状分析・課題の抽出、解決策の提案）を自ら踏むことができる力 b．継続的な対話や協働をとおして自ら納得解を得る力

次に、「市民性としてのリーガルマインド」のための育成すべき資質・能力を構造化すると、図１のようになる。

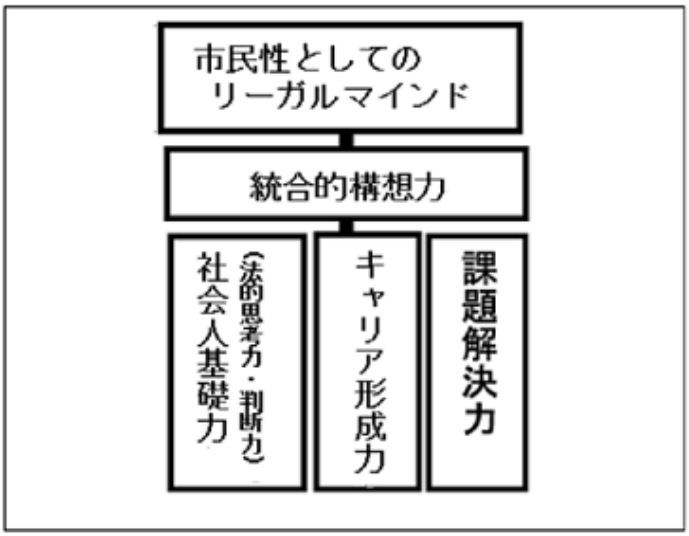

図１　「市民性としてのリーガルマインド」のための育成すべき資質・能力とその構造

これらの育成すべき資質・能力に照らし合わせて、科目・単元ごとに評価規準を設定し、評価を行う。

③「市民性としてのリーガルマインド」育成のための科目における目標と内容と授業実施上の課題や改善点

各科目（「メディア研究」「リーガルマインド基礎」「リーガルマインドⅠ」「リーガルマインドⅡ」）と、それらを履修する学年を、次の表３に示す。

表３　研究開発科目と学年

学年	科目名	単位数
１年生（必履修）	メディア研究	１単位
	リーガルマインド基礎	１単位
２年生（選択履修）	リーガルマインドⅠ	１単位
３年生（選択履修）	リーガルマインドⅡ	１単位

前記の四つの科目の目標と内容、授業実施上の課題や改善点を、次に示す。

【１年次】

「メディア研究」

（目標）

・メディアの発達と社会がどのように関わっているか理解する力
・メディアが持つ豊かな可能性のもと主体的にメディアにアクセスし発信する力
・さまざまな社会事象に対する見方、考え方を豊かにし、自分がメディアを通じて社会とどのように関わっているのかを意識する力
・統計情報や様々なテキストを社会的文脈でクリティカルに分析する力
・さまざまな立場から発信された情報に批判的にアクセスし、事象の本質を理解する力

（内容）

⑴ 様々なメディア

ア　メディアの送り手と受け手

様々なメディアから発信される情報を評価し、識別する活動を通じて、発信者の意図の読み取り、受信者としてのあるべき態度を理解する。小項目として「情報を受け取る」「情報を発信する」「グラフのミカタ」を設定した。

イ　メディアの発達と社会

メディアの発達が社会に与える影響を、その効果や危険性をとおして理解を深める。また、メディアと社会の未来を予測することを通じて、メディアと自分の関わりについて考察する。小項目として「多様な意見とメディアの役割」を設定した。

⑵ メディアと民主主義

ア　統計の読み方

統計データ等の客観的な資料を用い、前提となる知識を共有した上で、根拠を持って思考・判断・表現する力を高める。小項目として「記事が訴えること」を設定した。

イ　資料を活用した議論

メディアに掲載された記事から民主主義について考え、学んだ知識を用いて考えを根拠立てて説明する力を高める。その際前提となる知識の確認、必要な情報の抽出・分類・比較等を行い、思考・判断・表現の根拠とする。小項目として、「税から地方自治を考える」を設定した。

ウ　メディアと政治

メディアと政治権力や基本的人権との関係を追究することをとおして、メディアにアクセスしながら、自分と社会をつなぎ、社会制度を構想する力を育成する。小項目として「メディアと政治参加の意義」などを設定した。

（授業実施上の課題や改善点）

実施当初は文部科学省や運営指導委員会から「詰め込みすぎ」との指摘を受けた。そこで、単元目標を達成するために必要な教材を最低限度に絞り込むとともに、生徒に伝えたいキーワードを精選し、年間を通して何度も触れるようにした。また、教材の選択について、現実社会を想定したものとして、学んだ知識が活用できるようアウトプットの場面を増やすことを心がけた。

「リーガルマインド基礎」
（目標）
・協働して課題解決を図る学習をとおして、チームで働くことの意義を知り、意見を述べ議論する力
・さまざまな立場の人に学ぶことをとおして、他者を尊重しながら主体的に人とつながりを結ぶ力
・法教育、市民教育などをとおして、法や規範が共同体の中で果たしている目的や役割を理解する力
・様々な情報を適切に利用することで物事を合理的に解釈し、公正・公平に判断してより良い未来を考える力
（内容）
(1) 他者と繋がり、合理的に物事を考える
ア　自分から社会につながる
「働くこと」を題材に、社会人へのインタビューや社会人の講演会を通して、自分がどのようにあり、どのように生きるかを主体的に考察する。小項目として「職業人インタビュー」「職業人に学ぶ」を設定した。
イ　「合理的」に考えるスキルを身につける
様々な事例や報道を題材に、多面的に考え、合理的に判断するための基礎的な手法を学習する。また、インタビューなどの場面で習得したスキルの活用に取り組む。小項目として「ラテラルシンキング」「質問する力を磨く」「社会について考える」を設定した。
(2) 公平・公正・正義の感覚を磨く
複数の人間が対立している状況や、１つの状況に複数の立場が想定される状況を設定し、そこから争点を整理させ、他者との議論を通じて対立利益も踏まえながら解決策を考察する。小項目として「公平について考える」「公正や正義を考える」「正義について考える」「ギターが壊れた！」を設定した。
（授業実施上の課題や改善点）
主体性を発揮しにくい生徒への働きかけを行うようにした。また、授業の振り返りを丁寧に行い、その結果を次時に反映させることで、生徒に授業のつまずきや達成感を実感させるようにした。

【２年次】
「リーガルマインドⅠ」
（目標）
・法的な思考力・判断力、法の目的や法が社会の中で果たしている役割を理解する力
・法的な解決策の全体プロセスを考察し、問題解決の妥当な結論を判断し、結論に対する評価を行う力
・グローバル化、ローカル化する社会で、自己が果たすべき社会的責任を自覚する力
・共同体へ主体的、積極的に参加しようとする力
・地域の問題や行政課題に対する政策的リテラシー
（内容）
(1) 法と私たち
法や司法制度、また、これらの基礎になっている価値を理解し、社会の中で法が果たす役割や存在意義について考察する。また、身近なところに存在する社会の矛盾を探しだし、他者と協働しながら解決法を考え発表する。

(2) 模擬裁判

社会の中での紛争解決のあり方を理解し、法的思考力・判断力を高めるために刑事事件を事例として模擬裁判を体験する。

(3) 課題研究に向けて

リーガルマインドⅡで行う課題研究に向けて、論文作成に必要不可欠な主張の理由と根拠とはどのようなものであるか、それらを確認するための方法について学習する。また、学習した内容を踏まえて図書館等を利用し，社会的課題の収集をする。

（授業実施上の課題や改善点）

課題を解決するために考えるといっても、何をどう考えたらよいのかわからない。そこで大学の先生に来ていただき､「まず､問題が起こっている現場に行ってみよう。」「次にいろんな人の立場に立って考えてみよう。」とアドバイスをもらった。

すると、「相手の立場を把握してこそ、押しつけがましくない答えが出る。」と気づく生徒が出てきた。

また、刑事事件を事例にして模擬裁判を行うと、検察側が有罪であることをすべて立証していかなければならないため、弁護側が無罪を勝ち取りやすい傾向がある。いかに検察側のサポートをするかが重要であり、何度も専門家の力を借りた。

【３年次】

「リーガルマインドⅡ」

（目標）

・１年次、２年次に育成された資質・能力である「社会人基礎力」「キャリア形成力」「課題解決力」を「自ら」活用する「統合的構想力」を育成する。

（内容）

(1) 卒業論文

３年間の学校生活を通じて習得した内容をふまえた探究に取り組む。生徒の興味・関心等に応じた社会的課題を見いだし、資料の収集、分析などをとおして主体的に研究し、その過程において法的思考力・判断力及び表現力を高める。

(2) 未来探究

１年生で学習した「メディア研究」と関連付けて、メディアの役割や進歩と、未来の社会の在り方について、班ごとに課題を設定して探究学習を行い、研究成果を発表する。

（授業実施上の課題や改善点）

卒業論文のテーマについては、「解決をすることが社会的に意味のある問題」とするものの、自分の興味・関心に引き寄せる、すなわち自分ごととして考えられるようなものを設定するよう指導する必要がある。ただし、必ずしも卒業後の進路や自己の将来像から逆算してテーマ設定した生徒が、卒業論文完成によって達成感や自己肯定感を高めるわけではなく、現在の自分(高校３年生の自分)から出発してテーマを設定した方が有効に作用する可能性が高いことが、生徒へのアンケート調査分析から指摘できる。

次に、各科目と「市民性としてのリーガルマインド」のために育成すべき資質・能力の関係を図２に示す。

学年		1年生（全員）									1年生（全員）					2年生類型生徒						3年生類型生徒	
科目名		リーガルマインド基礎									メディア研究					リーガルマインドⅠ						リーガルマインドⅡ	
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(1)	(2)
育成すべき資質・能力		コンセンサスゲーム	公平について考える	質問する力を磨く	職業人インタビュー	講演会	正義について考える	職業人に学ぶ	法教育講演会	ギターが壊れた！	メディアの送り手と受け手	メディアの発達と社会	統計の読み方	税から地方自治を考える	メディアと政治	法と私たち①	法と私たち①～⑨	裁判傍聴	模擬裁判①～⑩	地域社会に学ぶ	課題探究に向けて	課題探究	未来探究
社会人基礎力	a自分の役割を果たしつつ、他者と協力する態度	■	■	■			■			■				■			■		■	■			
	b公正・公平に価値判断をする力、物事を多面的に捉える力	■	■	■		■	■			■		■	■	■	■	■	■		■				
	c様々な情報を適切に取捨・選択する力	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		■	■	■	■			
	d法を活かして社会の調和を保ちながら暮らす態度				■		■			■				■	■	■	■	■	■	■			
キャリア形成力	a主体的に社会に参画する態度				■	■		■						■			■			■			
	b「働くこと」の意義を理解する力				■			■															
課題解決力	a社会の様々な課題を抽出し設定する力					■	■			■				■			■		■	■			
	b課題について整理・分析し、調査する力									■				■	■		■		■	■			
	c課題解決のために適切な計画を立て、解決策を考察し説明する力									■				■			■		■	■			
	d協働的に追究し解決する態度									■				■			■		■	■			
	e解決したことをまとめて表現する力									■				■			■			■			
統合的構想力	a意思決定のプロセス(現状分析・課題の抽出、解決策の提案)を自ら踏むことができる力																				■	■	■
	b継続的な対話や協働をとおして自ら納得解を得る力																					■	■

図２　「メディア研究」「リーガルマインド基礎」「リーガルマインドⅠ」「リーガルマインドⅡ」と育成すべき資質・能力

④高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）と研究開発科目の関連

本研究における「リーガルマインド基礎」、「メディア研究」、「リーガルマインドⅠ」、「リーガルマインドⅡ」の目標や内容と、高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)（以降、「H30 要領」）の目標や内容との関連を検討するために一覧表を作成した。この表から、本研究の各科目の目標や内容は「総則」、「公共」、「情報」、「総合的な探究の時間」、「特別活動」等との関連性が高いことがわかった。それを図に示したものが次の図３である。このことから「H30 要領」の「総則」で示された「教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと」にも対応できる。

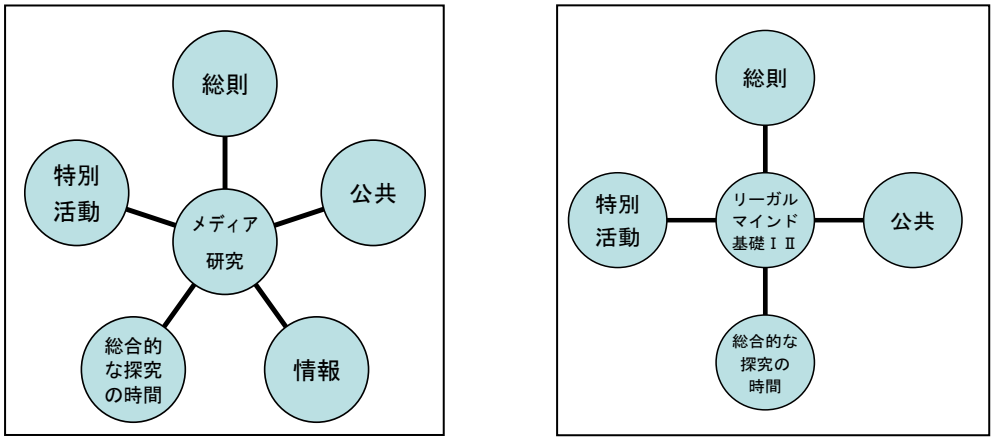

図３　「メディア研究」「リーガルマインド基礎・リーガルマインドⅠ・リーガルマインドⅡ」と「H30 要領」における各科目との関連

（３）研究開発に当たり配慮した事項・問題点

研究開発に当たり配慮した事項や問題点は、次のとおりである。

公立の全日制普通科高等学校である本校が、研究開発の指定を受けることの意義は非常に大きいものであった。研究を進める中で様々な課題が見つかり、それを解決していく過程において多くの学びがあった。本校にとっては、これらすべてが今後継承していくべき価値である。しかし、異動の多い公立高等学校にあって、研究開発を組織的・継続的に行い、改善を図るには、前任者や文部科学省、兵庫県教育委員会、運営指導委員会との密な連携が欠かせないものであった。

また、デジタル機器等が不十分だったこともあり、「市民性」を謳い、「メディア研究」を立ち上げたにもかかわらず、「デジタルシチズンシップ」に関する研究は思うように進まなかった。

研究課題である「市民性としてのリーガルマインド」を育成するためには、生徒の学びを校内の活動に閉じることなく、積極的に社会(校外)に出ていく場面を設定する必要があり、その際の安全面への配慮は欠かせなかった。しかし、運営指導委員会でも指摘され、卒業生のアンケートでも示されたように、今後、さらに校外へ出て学ぶ場面を設定する必要がある。そのためには、生徒の校外での活動が安全に行われるような制度を確立していかなければならない。

さらに、校内に向けて研究開発に関する情報を広め、職員間で共有するための働きかけが不十分だったため、他の教科や学校行事・部活動などで「市民性としてのリーガルマインド」のための資質・能力を育成する場面や、みとる場面の設定が限定的になってしまった。

４　研究開発の結果及びその分析

（１）実施による効果

①生徒への効果

39 回生(平成 30 年度卒業)から 41 回生（令和元年度２年生）まで、毎年年度末に「市民性としてのリーガルマインド」のために必要な資質・能力（「社会人基礎力」「キャリア形成力」「課題解決力」）が育成されているかのアンケート調査を実施した。次の表４は、「あてはまる」「割とあてはまる」と回答した生徒の割合を示したものである。

表４　「市民性としてのリーガルマインド」に関する資質・能力アンケート

回生	学年	社会人基礎力				キャリア形成力		課題解決力		
		自分の役割を果たしつつ他者と協力する態度	公正、公平に価値判断する力、物事を多面的に捉える力	様々な情報を取捨・選択する力	**法を活かして社会の調和を保ちながら暮らす態度**	主体的に社会に参画する態度	「働くこと」の意義を理解する力	社会の様々な課題を抽出し設定する力	課題解決のために適切な計画を立て、解決策を考察し説明する力	解決したことをまとめて表現する力
41回生	1年生(280名)	86	84	68	**39**	**31**	**23**	67	68	48
	1年生類型(28名)	89	71	71	**54**	**47**	**21**	60	67	57
40回生	1年生類型(29名)	93	83	80	**38**	**42**	**31**	79	76	69
	2年生類型(29名)	93	82	89	**45**	**38**	**31**	76	83	58
39回生	2年生類型(29名)	93	86	94	**57**	**64**	**57**	87	90	87
	3年生類型(29名)	96	96	89	**58**	**55**	**31**	86	89	**65**

１年生の時よりも３年生では「市民性としてのリーガルマインド」のための資質・能力の多くが身についたと実感している生徒が増加していることがわかる。

しかし、３年間通じて「社会人基礎力」のうちの「法を活かして社会の調和を保ち

ながら暮らす態度」と、「キャリア形成力」（社会参画や、「働くこと」の意味を理解する力）の数値が他に比べて低いことがわかる。

②卒業生への効果

令和元年 7 月から 8 月の夏休み期間を利用して、リーガルマインド類型卒業生 1 期生 25 名(38 回生平成 29 年 3 月卒業)、2 期生 30 名(39 回生平成 30 年 3 月卒業)、合計 55 名に対してアンケートを実施した結果、22 名（40%）からの回答を得た。

「リーガルマインド類型で学習したことで、自分が成長したと思える時はどんな時ですか。」という質問に対して、育成すべき資質・能力のうちの「社会人基礎力」や「課題解決力」が身についたという回答が多かった。また、大学でのグループワークやフィールドワーク、ゼミなどの授業における「発表場面」で自分の成長を実感するといった回答が目立った。必ずしも課題解決に関連しての発表場面であるとはいえないものの、「課題解決力」（e.解決したことをまとめて表現する力）が身についたと感じているということである。

次に、「類型でどのような学習をしていれば今の研究や仕事に役立つと思いますか。」と質問した。すると「職業、年齢、立場や考え方の大きく違った人との関わり方(についての学習)。そのような人と協力、一緒に作業しなければならない時が絶対くるので(後略)」という意見に象徴されるように「社会参画」を指摘する意見や、「文理の枠にとらわれず、様々な分野の課題について主体的に考えるようにする。」といった「課題解決」に関する学習の必要性を指摘する意見が目立った。さらに、もっと「法に関する学習」をしたかったという意見も見られた。

しかし、「後輩たちのため」に、「母校の研究開発のため」にアンケート調査に協力する卒業生の姿は、十分に「社会参画」の力を発揮していると考えられる。

③教員への効果

本校教員に対して、今年度(令和元年 10 月)に研究開発に関するアンケート調査を実施した。「生徒がリーガルマインドを身につけた、または、発揮した場面(授業中、ＬＨＲ等、部活動中、その他)に関するエピソード」を自由記述により回答してもらった。「文化祭の準備を進める中で、クラスが協力して活動できるようにバランスよく言動を行っていた。」、「資本主義・社会主義の学習の後、両者を二項対立で論じるのではなく、メリット・デメリットを踏まえた上で、第三の価値観を模索しようとする姿勢がみられた。」など「社会人基礎力」や「課題解決力」を示すエピソードが寄せられた。

次に、「本校が研究開発指定を受けたことで、ご自身の意識に変容がみられましたか。」とたずねると、回答の中に「授業改善の必要性に気づかされたが、小さな試みでとどまってしまい、まだまだ何もできてはいない。」というものがあった。意識の変容の必要性には気づいたものの、まだ動き出せていない、あるいはどうすればよいかわからない教員の存在が明らかになった。このアンケート調査後、すぐにリーガルマインド類型の授業公開をアナウンスしたところ、7 限であるにもかかわらず多数の教員が見学に来た。この度の研究開発指定を受けて、本校教員の意識に変化が起こった証であると考える。

④保護者への効果

本校の保護者 787 名（1 年生 239 名、2 年生 276 名、3 年生 272 名）に対して、「市民性としてのリーガルマインド教育」に関するアンケート調査(令和元年 10 月実施)を行い、全体で 476 件（60.5%）の回答を得た。その中で「本校が平成 28 年度からの 4 年間文部科学省の研究開発指定を受けたことで、学校全体の改善につながったと思う。」との回答が全体で 75%あったことから、保護者は本研究の成果を概ね評価していると考えられる。

５　今後の研究開発の方向性

（１）研究開発の成果

本研究における成果は、次の 5 点である。

① 「市民性としてのリーガルマインド」のための資質・能力を具体化、構造化した。

② 「メディア研究」、「リーガルマインド基礎」、「リーガルマインドⅠ」「リーガルマインドⅡ」の四つの科目を設定し、上記の資質・能力の育成を行った。

③ 平成 30 年告示の高等学校学習指導要領に示された目標や内容と、上記四つの科目の目標や内容との関連を示した。

④ 2030、2040 年に必要となる能力の育成に向けた教材開発を行った。

⑤ 生徒、卒業生、教員、保護者にアンケートを実施し検証した結果から、「市民性としてのリーガルマインド」のための資質・能力の育成に一定の効果があったことを示した。また、教員に向けて、今後の授業改善への方向性を示した。

（２）今後の研究開発の方向性

今後の研究開発の方向性として、次の 4 点を解決すべき課題とする。

①「市民性としてのリーガルマインド」のための資質・能力について

生徒が「課題解決」に関わる「社会参画」のための学習とそれにともなう積極的な発信の機会、「法に関する学習」の機会を増やすとともに、「キャリア形成力」を育成する取り組みを今以上に行う。さらに生徒自身が自らの成長を実感し、評価できる方策を取り入れる。

② 四つの科目を今後も継続的かつ発展的に研究するとともに、他の科目においても「市民性としてのリーガルマインド」の資質・能力の育成に向けた授業開発を行い、学校全体のカリキュラム・授業の改善のきっかけとする。

③ 今後卒業生が社会に出た時、成長を実感できるカリキュラムであったかどうかを長期的なスパンで検証する。

④ 校内・校外へ研究開発の取り組みを積極的に広報していくことで、教職員や保護者、地域で研究開発の成果を共有し、発展させるきっかけとする。

別紙１

須磨東高等学校　教育課程表（令和元年度）

1年

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
国語総合					現代社会	メディア研究	数学Ⅰ			数学A		物理基礎		化学基礎		体育		保健	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅰ			英語表現Ⅰ		家庭基礎		情報の科学		探究	LHR

※　探究：「リーガルマインド基礎」として実施

2年

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
文型	現代文B		古典B			世界史A 日本史A		日本史B 世界史B				数学Ⅱ				生物基礎 地学基礎		数学B 選択L		選択M		体育			保健	コミュニケーション英語Ⅱ			英語表現Ⅱ		LHR	リーガルマインドⅠ
理型	現代文B		古典B		世界史A		地理B			数学Ⅱ			数学B			地学基礎 生物基礎		化学		物理 生物□		体育			保健	コミュニケーション英語Ⅱ			英語表現Ⅱ		LHR	

※リーガルⅠは選択科目

3年

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
文型	現代文B		古典B			日本史B 世界史B				体育			コミュニケーション英語Ⅲ				英語表現Ⅱ		選択10単位（2単位×5科目）										総合	総合	LHR	リーガルマインドⅡ
理型	現代文B		古典B		地理B		総合数学γ2 数学Ⅲ□					選択 総合数学β			化学			物理 生物			体育			コミュニケーション英語Ⅲ			英語表現Ⅱ		総合	総合	LHR	

※リーガルⅡは選択科目

別紙２

学校の概要

１　学校名　　兵庫県立須磨東高等学校（ヒョウゴケンリツスマヒガシコウトウガッコウ）
　　校長名　　厚田（アツタ）　太加志（タカシ）

２　所在地　　兵庫県神戸市須磨区東落合 1-1-1
　　電話番号　　078-793-1616
　　ＦＡＸ番号　078-793-1617

３　課程・学科・学年別生徒数、学級数

課程	学科	第１学年		第２学年		第３学年		第４学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	普通科	239	6	276	7	271	7			786	20
計		239	6	276	7	271	7			786	20

４　教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1	0	1	0	0	44	0	1	0	0	10

ALT	スクールカウンセラー	事務職員	司書	計
1	2	5	0	65